

氏名： 富士原 紀絵 (FUJIWARA Kie)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： 修士 (1995 お茶の水女子大学)
職名： 准教授
専門分野： 教育方法学 (教育実践史、カリキュラム論)
E-mail： fujiwara.kie@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

カリキュラム／教育方法／日本教育実践史／教育課程
curriculum / educational method / history of educational method in Japan / course of study

◆主要業績

総数 (4) 件

- ・第四章「学力調査の意味するもの—学力調査は学習指導の改善に役立つのか」牧野カツ子・耳塚寛明編『お茶の水女子大学 21 世紀 C O E プログラム・誕生から死までの人間発達科学・第四巻・学力とトランジションの危機』金子書房
- ・第三章－8「体験を通じた実感的な理解」佐藤真編『教職総合特集 体験学習・体験活動の効果的な進め方』教育開発研究所
- ・「教員養成系附属学校の史的意義」全国地方教育史学会紀要第 28 号『地方教育史研究』
- ・「教科課程・『学習課程』・教育課程」奈良女子大学附属小学校学習研究会『学習研究』430 号

◆研究内容 / Research Pursuits

戦後初期の小学校のカリキュラム改革に関する研究。1950 年代に展開されたコア・カリキュラム運動の先駆けとなる、終戦直後の 1945～49 年の間に行われた実践研究の特徴について、戦前からの影響の有無も含めて検討を行った。従来のコア・カリキュラムに関する研究は 1950 年代の実践を対象としてなされてきたが、本研究は戦前・戦中・戦後との時間的連続性の中で検討することに特徴がある。具体的には、戦前、1930 年代にカリキュラム改造に取り組んだことで知られ、さらには 1950 年代のコア・カリキュラム運動を代表する実践校として知られる明石女子師範学校附属小学校の 1940 年代の実践研究について、制度としての教育課程との関係性のみならず、教員構成や学校経営、研究指導体制作りといった様々な要因も含めて、同校の戦後のカリキュラム改革を支えた条件の解明を行った。なお、本研究は現在の「総合的な学習の時間」にも示唆を得ることができる。

Research on elementary school curriculum reform during the early post-war period. The characteristics of the studies regarding the educational practices during the early post-war period, between 1945 and 1949, preceding the Core Curriculum Movement in the 1950's, were examined, including the influence of the pre-war era. Traditionally, studies concerning the Core Curriculum movement had focused on the implementation of the educational practices during the 1950s; however, my research is characterized by an approach based on the temporal continuity from pre-war, through war-time, to post-war periods. Taking as an example the elementary school attached to Akashi Women's Normal School, known for its prewar efforts in curriculum reform in the 1930s and its leading role in the Core Curriculum movement in the 1950s, its educational practices were examined from the view point of conditions which supported its postwar curriculum reform including elements such as the composition of teachers, the management of the school and the process of implementation and teacher training as well as their correlation to the curriculum as a system. The study should give a useful indication for the present period for 'Integrated Study'.

◆教育内容 / Educational Pursuits

(学部)

教育課程や教育方法、教職関係科目の授業を担当した。教育課程概論では現代の教育課程や教育方法につながる問題点を意識して、日本の戦前から現在にいたる教育課程の特徴について講義を行った。授業研究演習では現在の日本を代表する教育方法について論じた文献をゼミ形式で購読した。この他、小学校教材研究・国語、社会科教育論、道德教育の研究といった教職関係の授業を担当し(オムニバス形式も含む)、教育実習の事前・事後指導を担当した。また、小学校や少年院といった実際の教育現場と学生との接触を図るための授業運営や、NPO インターンシップのコーディネートを担当した。

(大学院)

修士課程の「教育実践学」演習・特論では教育評価をテーマにした。前期は日本の教育評価の歴史に関する研究論文を購読し、後期は最近の海外の教育評価に関する文献購読と、現在の日本の学校に導入されている教育評価について検討を行った。カリキュラム研究演習ではアメリカの最近のカリキュラム改革についての文献検討を行った。

(For Undergraduate)

I taught classes regarding educational curriculum, educational methodology, teacher training and others. In the 'Introduction to educational curriculum' class, I ran a series of lectures regarding the characteristics of the educational curriculum in Japan from the pre-war era up to the present, highlighting the issues which lead to the present educational curriculum and its methods. In the practical teaching exercise class, we read materials regarding typical contemporary Japanese educational methodologies. In addition, I taught classes aimed at teacher training including the teaching material studies for elementary school, educational theories on Japanese language, social studies and moral education (including omnibus format), coordinating and supervising the students on-site teacher training throughout.

(For Postgraduates)

In the Theories of educational practices seminar class in postgraduate courses, I took up the theme of educational assessments. In the first term, we read research papers on the history of educational assessment in Japan, while in the second term, we studied materials regarding the latest educational assessment in other countries, as well as educational assessment methods introduced into contemporary Japanese schools. In the curriculum studies seminar class, materials on recent curriculum reform in the USA were read and examined.

◆研究計画

1. 日本の戦前・戦後の小学校のカリキュラム改革の歴史的研究の対象を、戦後の中学校に展開させる。この研究は、特に今日、中等教育で問題となっている「総合的な学習の時間」の現場での運営に寄与するものと期待できる。
2. 教師の教育評価観に関する研究を進める。教育評価、教育測定、テストといった方法論は教師の中でどのように認識され、実践にいかされているのかについて、歴史的な研究とともに、現在の教師の意識調査などを行い、授業に反省的に還元される評価方法について検討する。

◆メッセージ

将来、教職を志望する学生を育てること、あるいは現職の教師の方の実践研究への手助けをすることが自分がこの職に就いた理由です。学校に対する社会の期待は年々大きくなる中で、教師や子どもをめぐる様々な困難が取りざたされています。しかし、教師という仕事は目に見えない子どもの可能性、そしてその子どもらによって創られる未来を生み出す手助けをするという意味において、社会の行く末を左右する重要な仕事であるのみならず、本来、未知のものを扱う創造性豊かな楽しい仕事であると考えます。そうした仕事に進んで携わろうとする、そして現に携わっている人たちの期待や夢、そして直面している困難を一緒に考え学んで行くことを基本的なスタンスとしています。これまで小・中・高等学校の教師と子どもたちと様々な問題と一緒に取り組む中で多くのことを学んできました。研究対象は歴史的な実践ですが、歴史の中に登場する教師からも多くのものを学んでいます。実践に即していれば時空を問いません、学校や教師について一緒に考えてゆきましよう。